

イプロジオンくん煙剤 ロブラールくん煙剤	取扱メーカー： バイエル 原体メーカー： FMC
成分： イプロジオン〔ジカルボキシイミド系 PRTR・1種〕…20.0%	性状： 類白色発煙性中空円板状，1個50g（外径6.5cm，内径2cm，高さ1.6cm） 毒性： 劇物 消防法： —

【品目特性】

- 施設野菜の難防除病害である灰色かび病，菌核病，つる枯病に対してハウス内の湿度を高めず，イプロジオンのもつ特性を生かす防除ができる。
- 収穫物にほとんど汚染なく，果菜類では収穫前日まで使用できる。
- その他，ロブラール水和剤の項参照。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】

- くん煙する場合は，添付の吊具又は所定の電気式点火・くん煙装置を使用してくん煙する。吊具及び電気式点火装置は吊り下げるか，又は不燃性の台などの上にのせて使用する。なお，植物体，可燃物から離れた中央の安全な場所に設置する。特にビニール等の被覆材とは60cm以上離れた位置で使用する。
- 点火は以下のとおりに行う。
 - 点火紙を用いる場合
同封の点火紙を吊具の所定の位置に正しく設置しその上に薬剤をのせてから点火紙に点火する。点火紙を薬剤の上にのせて点火すると炎が出るのでさける。
発煙直後に万一炎が出た場合は吹き消す。
 - 電気式点火・くん煙装置を使用する場合
装置は水などに濡れないように設置し，電源がオフになっていることを確認のうえ，薬剤を装置の所定の位置に正しく設置した後に通電する。点火後発煙したら電源のオフを確認し，くん煙室の外に出てそのまま放置する。
発煙直後に万一炎が出た場合においても，再び

くん煙室に入らずに，そのまま放置する。

○点火後はくん煙室に入らない。

- 発煙後は速やかに退室，室を密閉する。くん煙中はハウス内に入らない。やむを得ず入室する場合は，防護マスクなどを着用。
- くん煙開始後12時間以上経ってから開放する。通常くん煙は夕刻に他の農作業を終えてから行い，翌朝開放し，十分換気した後入室する。

【薬効・薬害等の注意】

- 定植直後や幼苗，軟弱苗などには薬害を生じるおそれがあるので使用しない。
- 作物が，ハウスの天井に触れる位に大きくなっている場合は上方にたまった濃煙に触れる部分に薬害を生じるおそれがあるので使用はさける。
- ぶどうに使用する場合，葉焼けなどの薬害を生じやすいので次の事項に注意する。
 - 発煙は1カ所50g以下
 - 暖房機などを作動させ，煙の拡散をよくする。
 - デラウエア，巨峰，ピオーネ以外の品種は薬害を生じやすいので必ず吊具を使う。
 - 超早期加温栽培の場合や樹が軟弱に生育した場合，使用はさける。
- 薬剤耐性菌の出現を防ぐため，本剤の過度の連用はさけ，なるべく作用性の異なる薬剤と組み合わせで輪番で使用する。
- 適用作物（全般）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】



【適用と使用方法】

作物名	適用場所	適用病害名	使用量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	イプロジオンを含む 農業の総使用回数
ト マ ト ミニトマト	温室, ビニール ハウス等 密閉できる 場所	灰色かび病 菌核病	くん煙室容積 300 ～ 400m ³ (高さ 2 m, 床 面積 150 ～ 200m ²) 当り 100 g (50 g× 2 個)	前日まで	3 回以内	くん煙	4 回以内 (種子粉衣は 1 回以内, は種 後は 3 回以内)
きゅうり なす ピーマン					4 回以内		5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内, は種 後は 4 回以内)
す い か		菌核病					
メ ロ ン		つる枯病					
い ち ご み か ん		灰色かび病		7 日前まで 開花直前 ～幼果期	3 回以内		3 回以内
ぶ ど う							
とうがらし類		灰色かび病 菌核病		前日まで	2 回以内		3 回以内 (種子粉衣は 1 回以内, は種 後は 2 回以内)